

3月12日 第23回あいち社会保障学校

～コロナ過だからこそ、暮らしと社会保障の充実を～労働会館+リモートで70名参加

3月12日午後、『第23回あいち社会保障学校』が労働会館・ホールとリモート併用で開催され、70名余が参加しました。



司会進行は矢野社協事務局次長（県医労連書記長）が進め、開会あいさつを森谷社協議長が行いました。

森谷議長は「コロナ過の中で、今も連日感染者が拡大し、入院も5割を超える状況と大変厳しい状況。とりわけ、子どもへの感染拡大が進んでいる。そんな中でも、国は地域医療



構想で病床削減をさらに進めようとしている。社保闘争はさらに重要性を増し、一層の強化が必要。今日の社保学校で学習を深め、キャラバンの報告で成果を確認し、さらに進めていこう！今、ウクライナの状況を見ても、平和を守る運動も大切さを増している」とあいさつしました。

1)「記念講演」では、本田宏さんがリモートで講演し60ページを超える資料を駆使し、『①問題解決のためには、「全体像を把握する」、「世界と比較する」、「温故知新で歴史の中から検証する」ことが正しい診断のためには「必要最低条件」と強調。②日本の医療は、公的病院が極端に少なく、歴史的に財政難などから公的病院を犠牲にしてきた。③世界の常識と比較すると、公的病院少ない。人口当たりの医師も少ない。医療費総額も抑制され、自己負担は高い。日本は、社会保障費削減、医療費削減を国の政策として進めてきた。④選挙の投票率が下がり続けている。政治に無関心となる教育や社会。特に学校教育での知識偏重主義、社会の仕組みを学び政治を論議できる教育となっていない！⑤今こそ、学んだ人が、気が付いている人が積極的に情報発信し、社会を変えていこう！』(要旨)と、時に笑いを取る軽妙な会話で、みごとに60ページを超える資料を説明し、参加者の理解を深めることが出来ました！

第23回あいち社会保障学校

社会保障切り捨て日本への処方せん
～新型コロナウイルスを乗り越えて～

3月12日(土) 13:30～ 愛知労働会館東館ホール & リモート

YouTube

6NEWS 2022.3.12

世界では医療は教育や社会保障と同じく「社会的共通資本」崩壊！を公立病院独法化 (36分)

NPO法人医療制度研究会 副理事長
本田宏医師 (36分)
増山麗奈

オミクロンと医療崩壊

2022.3.12 NPO法人医療制度研究会 本田 宏

2)「2021 年自治体キャラバンまとめの報告」—澤田社保協副議長

昨年 10 月実施の結果まとめより、①「子どもの医療費無料化」は大きく前進している。②「介護保険」の減免—全国水準より大きく前進している。③運動による制度前進が全国制度へ発展できている。④コロナ過の中でも、54 自治体中 53 自治体で「懇談」が出来たこと。⑤参加者は、懇談の人員制限もあり、若干減少している。⑥「事前学習」は 22 地域で実施され、369 人が参加し一定程度定着してきた。今後は事後の報告学習会も取り組んでいこう。⑦全ての自治体から「文書回答」を得られている。⑧全 104 ページの「まとめ報告書」の重点事項を報告しました。



3)「知っとくパンフ 2022 年版」の紹介—日下社保協事務局次長・保険医協会事務局次長



「知っとくパンフ 2022 年版」新版を作成しました。

キャラバン行動の成果を踏まえ、「医療・介護・税金の負担軽減」となる制度を分かりやすく解説しました。パンフでは、制度（税金・医療・介護・障害・生活保護）ごとに制度概要、申請方法、申請先などを紹介しています。

ぜひ、大いに活用してください！ 1 冊 100 円で販売しています。

4) 会場発言

①長尾（「424 愛知共同行動」事務局）

・コロナ過の中でも、公立・公的病院を中心に地域医療構想を進める「病床削減」が進んでいる。多くの公立・公的病院が「新型コロナ受け入れ」を行って、地域医療を守る役割を果たしてきた。しかし、国は、新型コロナの感染拡大は、平時ではなく、有事・災害時という特別視し、地域医療構想を進める病床削減はさらに進めようとしている。地域で医療を守る運動を！



② 館（名古屋市職労）

「国民健康保険」収納業務の合理化、自動化が全国で進んでいる。督促の自動化、預貯金調査の自動化、「口座振替」が進み、収納率向上。本来、「対面調査」による慎重な対応が重要と考える。



5) 閉会あいさつ 知崎愛労連顧問

今日の学習で「知を力に、社会保障守る運動を各地で奮闘しよう！」→

☆集会最後に、「ウクライナ人民のいのちを奪うな！」「ロシアは軍事侵攻やめよ！」と **プラカード** を掲げてアピールしました！

